

令和6年度第1回小牧市小中学校部活動検討委員会 会議録

1 開催日時	令和7年2月21日（金）午前10時00分から
2 開催場所	小牧市役所 本庁舎4階 404会議室
3 出席	加藤委員長、西尾副委員長、前原委員、大野委員、岩井委員、森川委員、尾形委員、滝藤委員、宮腰委員、新實委員、服部委員、田上委員、福岡委員
4 欠席	清水委員
5 事務局	《小牧市スポーツ協会》中谷ジュニア育成指導員、舟橋係長 《こまき市民文化財団》高木次長、伊神事業グループマネージャー 《文化・スポーツ課》藤田課長、永田主事 《教育委員会》中川教育長、伊藤部長、矢本次長 《学校教育課》吉田課長、采女管理指導主事、高堀指導主事、山下係長、石黒主査
6 傍聴者	なし
7 議題	(1) 令和6年度の取組について (2) 今後の取組について

<開会 午前10時00分>

1 開会

吉田課長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今から、「第1回小牧市小中学校部活動検討委員会」を開会いたします。

私は、司会を務めさせていただきます小牧市教育委員会学校教育課長の吉田です。よろしくお願ひします。

【資料確認】

まず始めに、資料の確認をさせていただきます。

本日配布させていただきました資料は

- ・次第
- ・資料1 小牧市小中学校部活動検討委員会委員名簿
- ・資料2 小牧市小中学校部活動検討委員会設置要綱
- ・資料3 令和6年度の取組と今後の取組について
- ・資料4 中学校部活動民間指導者数の推移について

- ・資料5 中学校部活動地域連携地域移行に関するアンケート
- ・座席表

でございます。不足などがございましたら、お申し出ください。

【傍聴について】

本委員会は、「小牧市審議会等の会議の公開に関する指針」に基づき開催するものでございます。そのため、個人が特定可能な議題などを除き、原則公開として開催させていただきたいと思っております。よろしいでしょうか。

(1) あいさつ

吉田課長)

開催にあたりまして、中川教育長よりご挨拶をいただきます。

中川教育長)

改めましてこんにちは。

委員の皆様方におかれましては、様々なご意見等を日々いただきながら進めていただきましたこと、誠にありがとうございます。

小中学校の部活動の検討につきましては、委員の皆さん方ご承知のように、スポーツ庁、文化庁から問題提起がされて、ここへ来ていよいよ移行期間が提示されたりしながら、会議が進められてきているわけです。

小牧市につきましては、拠点を設けてモデル的に取り組むなど、緩やかな移行を当初考えてきていたわけですが、現状ではどうなのか、思うように進んでいるのかということについては、それぞれ委員の皆さん方のお考えがあるかと思っております。

将来的に小中学校の部活動を変えていくということは、市全体のスポーツ文化芸術に関する環境そのものに大きな影響していくということを考えながら進めなければならないと常々思っています。

ただ小牧市は、小学校と中学校においてはすでにジュニアクラブ化についての取組をし、あるときから中学校の部活動については地域連携型部活動という形でのシステムを変えてきた経緯がございます。

取組については、当初この会を立ち上げる段階で私の方からは、拙速に動くのではなく、できるところからということをお願いしていたわけですが、ここへ来て先行的にやっている自治体等が様々出て来ました。

そういった流れの中で、大きな課題というのがいくつか出てきています。

それが見えてきたこの時期だからこそ一歩、小牧ももう一歩踏み出さないといけないと感じているところであります。

明確にその道を、方向性を出していかなくてならないと思っておりますので、委員の皆さん方から様々な課題を含めてご意見をいただき、少しでも前進できるように進めていきたいと思っております。このあと限られた時間ではありますが、よろしく願いいたします。

(2) 委員の紹介

吉田課長)

【委員紹介】

【事務局紹介】

(3) 会議の運営等について

吉田課長)

会議の運営等について、担当からご説明いたします。

事務局)

恐れ入りますが資料2をご覧ください。

資料2、小牧市学校部活動検討委員会設置要綱をご覧ください。

まず第一条、小牧市小学校及び小牧市立中学校における部活動のあり方に関し必要な事項を検討するため、この委員会を設置するものでございます。

第三条、組織等でございますが、この委員会は、児童生徒の保護者、有識者、学校関係者などの15人以内に組織し、任期は2年でございます。

第四条第2は、委員長、副委員長を置き、委員の互選で定めるとしておりますので、後程委員の皆様にご審議をお願いいたします。

第五条、会議は委員さんより招集され、につきましては、委員長に振り回しをお願いするものがありますことにつきましては、ご覧おきください。

吉田課長)

会議の運営等について、事務局からご説明申し上げましたが、ご質問があればお受けいたします。よろしいでしょうか。

2 委員長、副委員長選出について

吉田課長)

続きまして、委員長と副委員長の選任をお願いしたいと思います。

先ほどもご説明申し上げましたが、委員長、副委員長の選任については、委員の互選により定めるとされております。

恐れ入りますが、委員の皆様から、立候補、あるいはご推薦をいただきたいと存じますが、いかがでしょうか。

田上委員)

委員長は加藤委員に、副委員長は西尾委員をお願いしたいと思います。

吉田課長)

今、田上委員より、委員長には加藤委員、副委員長には西尾委員という発言がありましたが、いかがでしょうか。

「異議なし」

吉田課長)

皆様のご異議もないということですので、委員長は加藤委員に、副委員長は西尾委員をお願いしたいと思います。それでは、加藤委員と西尾委員におかれましては大変恐縮

でございますが、委員長席と副委員長席へ移動願います。

吉田課長)

それでは、改めまして、委員長にご就任いただきました加藤委員にごあいさつをいただきたくと存じます。加藤委員長よろしく願います。

加藤委員長)

改めまして皆さんおはようございます。ただいま委員長にお認めいただきました味岡小学校の加藤でございます。よろしくお願いをいたします。

教育長からも話がありましたように、令和5年度から、モデル校ということで、小牧市としても様々な取組をして参りました。

ただ、他市町が取組をしている中で、小牧としても今後の運営の仕方、部活動の持ち方についてさらに検討を深めていきたいと思っておりますので、今日も忌憚のないご意見いただければと思います。

また事務局の方からも、次年度どのような形で進めていくかという提案もあると思いますので、それについても課題等あれば意見を出していただければと思いますのでよろしくお願いいたします。

3 議題

資料3 議題について

加藤委員長)

それでは、令和6年度の取組について、今後の取組についても、事務局から説明を求めます。

事務局)

資料3をもとに、これまでの経過、令和6年度の取組、今後の取組について説明をさせていただきます。

1 ページの上段をご覧ください。令和2年9月の学校の働き方改革を踏まえた部活動改革についてをはじめ、国では部活動の地域連携、地域移行における方針が打ち出されてきました。

令和4年の12月、学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドラインでは、令和5年から7年の3年間で改革推進期間とされ、全国的に取組が進められているところであります。

令和6年12月、実行会議の中間取りまとめの中でこの先の令和8年から13年の6年間を改革実行期間と位置づけるという方向性が出ております。

また学校で部活動として行ってきたスポーツ・文化芸術活動を地域全体で関係者が連携して支え、子どもたちの豊かで幅広い活動機会を保障するという考え方から、地域展開という名称を使うという話も出ております。

1 ページの下段になります。部活動の意義と課題について、改めて載せさせていただきました。少子化による生徒数の減少により、これまでのように部活動を継続できない状況が、学校によってはでてきております。

教員の長時間労働をはじめ、解決すべき課題がある中で、小牧市の子どもたちが将来

にわたって、文化芸術やスポーツに継続して、親しむことができる機会を確保することを目指しております。

2 ページをご覧ください。令和6年6月現在の数字になりますが、市内の中学校におきまして、部活動に所属している生徒の数になります。上段が運動部、下段が文化部になります。少子化による生徒数の減少により、部活動を継続できない、希望する種目が在籍校にないといった状況も学校によって出てきております。

小牧市としましては、活動の受け皿や指導者の確保など、課題が大きいという現状を踏まえて、地域移行よりも学校部活動を生かしながら、地域連携を進めるという方法を、この令和5年度6年度とって参りました。

3 ページをご覧ください。令和5年度からモデル校を設定しまして、今年度の令和6年度につきましては、小牧中・小牧西中の2校間における地域連携、篠岡中・桃陵中・光ヶ丘中の3校間における地域連携に取り組みました。

桃花台の3校間におきましては、野球部の合同練習が行われ、野球部が設置されていない篠岡中学校から、希望する生徒が参加しました。また、バスケットボール部が設置されていない篠岡中学校から希望する生徒が桃陵中バスケットボール部の休日の活動に、この1月から参加をしていることも聞いております。

このように、生徒が希望する活動の場が保障され大会に参加することで、日頃の練習の成果を発揮し、達成感を味わうことができているということが成果として挙げられると思います。

その一方で、小牧中と小牧西中の方では具体的な連携が難しい状況がありました。部員不足の種目以外では、なかなか連携が進んでいかないことが現状課題として挙げられています。

今後の取組のあり方を検討する材料とするため、令和6年12月に小6児童、中1・中2生徒、小4から中2の保護者、小中学校教員を対象にアンケートを実施いたしました。ここではそれぞれの結果から把握できたことを簡単にお伝えさせていただきます。

下段になります。小6児童のアンケートの結果です。中学校入学後の休日の過ごし方について尋ねるという形で、アンケートをとりました。複数回答可ではあるのですが、部活動に取り組みたいという回答は3割程度でありました。

それに対して、趣味や好きなことをする時間にしたいという回答が8割近くありました。現状の学校の枠組みにとどまらずに、スポーツや文化芸術活動に親しみながら人間関係を広げられるような環境を整えることが大切であるととらえております。

4 ページ上段、中1・中2生徒アンケート結果です。活動の楽しさとあわせて技術の向上を目指すことやこれまでも参加していた部活動の種目に続けて取り組むことを希望する傾向がありました。

学校部活動の枠組みを超えて活動する環境や、専門的な指導を受けられる環境を整えることが必要であるととらえています。

4 ページの下段になります。小4から中2の保護者アンケート結果です。これまで子どもたちが参加していた種目の活動が継続されることを望む声が多い中で、当然のことかと思いますが、活動場所が今の学校と異なる場合の送迎や、地域の活動となった場合

の参加費、その他保護者の負担になることへの不安や、子どもたちの移動範囲や人間関係が広がることによって、安全面や人間関係のことを心配する声もあります。

5 ページお願いします。小中学校教員アンケートの結果です。今後取り組む環境や条件によって、結果は変わってくるのかもしれませんが、「休日に地域の指導者として指導することを希望する」「どちらかといえば希望する」を合わせて12%という数字であり、指導者確保が大きな課題であると思っています。

現在でも、ジュニア育成活動などの地域の活動に関わっている教員も一部いると把握しておりますし、競技によっては地域の文化・スポーツ団体が、指導の中心になることも可能ではないかと考えています。

アンケート結果の詳細は資料5になりますが、また内容をご確認いただきましてご意見等ありましたら、お願いいたします。

今後の取組の基本的な方向性についてです。5 ページ下段から6 ページの上段をご覧ください。

令和7年度につきましては、地域連携の取組をモデル校で継続すると同時に、将来的な地域展開を見据えて、受け皿の調査検討も進めていきたいと思っております。種目ごとに指導者確保の状況がどのようになるかによって、地域の取組へつなげていきたいと考えております。

大枠としましては、中学校ごとに行っている部活動の取組を地域の取組へと最終的に移していくことを目指すところです。

6 ページ下段から7 ページ終わりにかけて、学校部活動と地域主体の活動を比較した表を載せました。位置付けや指導者、参加費などを比較して書かせていただいております。

7 ページ下段になります。先ほど受け皿の調査検討とお伝えをしましたが、スポーツ・文化団体への意向調査や、現在、民間指導者という形で学校に関わってくださっている地域の方たちもお見えですので、どのように今後も活躍していただけるかということも探っていきたいと思っております。

資料4ですが、中学校部活動に関わっている民間指導者数の推移などをまとめてあります。

学校によって差はありますが、以前より、民間指導者派遣事業として地域人材を活用した地域連携に取り組んできたところです。今後は企業などの連携やスポーツ・文化活動環境を整える上で、どのような方策があるかということを探っていきたいと思っております。

また資料3に戻っていただきまして、8 ページの上段になります。費用についてのイメージを示させていただきました。将来的に地域における活動ということになった場合に、参加者、受益者の負担というのが基本的な考えになります。

8 ページの下段になります。令和7年度、来年度にモデル校で取り組む内容についてです。6年度小牧中・小牧西中の2校間、桃花台の3校間ということで取組をしましたが、来年度、種目ごとに活動場所を指定しまして、地域での連携を続けていきたいと考えています。

また、来年度について、位置付けとしてはあくまで学校部活動として学校管理下での活動となりますが、種目によって小牧中・小牧西中で一緒に活動をしなが、民間指導者の方など外部の方が、種目によってはたくさんいらっしゃるの、これまで同様関わっていただく形を継続していきたいと思っています。

9 ページの上段になります。令和 8 年度からの取組についてです。受け皿の調査検討ということをお伝えしましたが、市内全体で種目によっては、1 ヶ所、または複数箇所に拠点を置いて、希望者が参加できる環境を整えていきたいと考えています。赤枠で囲ってあるのは、あくまで種目の一例として、部活動の数が市内全体で少ないものや、指導者の確保ができるものを探していきたいと思っています。

9 ページの下段については、指導者確保の状況に応じて、学校単独で取り組むという今までの考え方から、ブロックや市全体で取り組むということを進めたいと思っています。

10 ページですが、文化活動についても受け皿や指導者を確保しつつ、運動部同様に進めたいと考えておりますが、まだ具体的に進められていないというのが現状ですので、委員の皆様から様々なご意見をいただけたらと思っています。

加藤委員長)

事務局からの説明で、今年度までの活動、来年度以降の活動アンケート結果等もありました。どこからでも結構ですが、質問があればこの場に出していただきたいと思ます。

岩井委員)

今のお話の中で、部活の連携の中で、部員数が足りている種目についてはなかなか進まないというご説明はそれでよろしかったでしょうか。その主な理由がわかりましたら、教えてください。

事務局)

部員数の多い部活動については、現時点で学校として大会に参加することが基本になっております。将来的には、子どもの数が減ることを見越して連携を進めながら、それぞれの学校に外部指導者がいれば、地域の方に多く入っていただける環境もできます。そういった視点から連携の取組を考えておりますが、「学校単独で取り組む」という考え方の転換がなかなか進まないところがあると思っています。

岩井委員)

それは指導者、いわゆる各校の顧問の考えが強いということですか。

事務局)

顧問の人たちの考えも色々あると思いますが、やはり何年か先とか何年度を見越してということが、こちらも十分に示すことができていません。将来を見据えて「今からこのように連携をしましょう」という考えの浸透が難しいという考えであります。

加藤委員長)

今年度までの活動の中での質問が出ましたので、同じようなところで質問があれば、お願いをしたいと思います。

大野委員)

親という立場もあると思うのですが、地域クラブ運営のために参加料や連絡アプリ利用料など保護者の負担が出てきます。当然、学校の部活動ではないので、お金がかかってきます。

今後連携を進める中で、どれぐらい各家庭に負担が行くのかと単純に自分の学校ではない場所に子どもたちが行くにあたっての安全面と保護者の送迎が負担になるのではないかと思います。その保護者負担が、資料を確認したところ明確に出てないところが気になりました。

小牧市は少子化や人口減少、人口動態のところはまだ緩やかだと思うのですが、もっと過疎化している地域はいくつもあり、学校そのものがなくなるような田舎もあると思います。要は以前同じような問題が起きたところが、どのように対処してきたかという事例が見当たらず、そこで成功例・失敗例があるのではないかと考えました。もし何かあれば、それをお聞きしたいです。

加藤委員長)

保護者の負担の状況・送迎など、金額的なものも含めて現状桃花台地区の3校が行っていると考えます。その部分がもしわかれば、また地域の状況ということで、事務局よろしいでしょうか。

事務局)

まず、安全面のことで、合同でやっていくとなると今まで自分の通学する学校で活動していたため、そのままの場所で活動する子もいれば、違う学校からその場所へ行く子も出てきます。基本的には、安全に安全面に気をつけながら自転車の移動を許可したり、中には保護者が送迎をしてくださったりしているところもあると思います。現在のモデル校を見ますと、学校管理下での部活動ということで、このルートでその練習場所に行くことを学校が把握させていただきながら、万が一のけがなどについては、スポーツ振興センターの保険で対応させていただく形です。

ただ、おっしゃられるように、やはり移動の距離が広がれば、安全面などの心配があります。その点はしっかりと留意しながらやっていかないといけないと思います。地域の活動になっていく中では、保険料のところに書かせていただきましたが、スポーツ安全保険等、別の保険に加入をするなど、学校管理下の活動でなくなった際には保険料が必要になるという想定です。

全体での保護者負担の試算は出していませんが、資料5のアンケートの13ページに、保護者アンケートの問8で「参加費として月にどのぐらい許容できますか」という質問の結果があります。他地区でも同様のアンケートを行っており、参考にさせていただきながら、今回の金額設定をさせていただきました。先行している他の市町ですと、ある程度このぐらいの金額かと思います。そのため、アンケートもこのぐらいの数字にさせていただきました。

また、先進事例ということで、部活動について情報共有をする県の連携協議会の場では、他地区でも同じように学校の部活を生かしながら地域連携という形で計画を進めていたり、文化・スポーツ団体に委託をしたりするなど、いろんな取組をされていました。

「この取組がものすごくいい」「これは少し難しいのではないか」など分析が十分にでき

ていないところではありますが、様々な先行事例を参考にしていきたいと考えております。

大野委員)

現状はその程度ということは、認識できました。

加藤委員長)

その他に質問はよろしいでしょうか。

前原委員)

たくさんの資料をいただいて目を通させていただきましたが、やはり中心になるのは活動する生徒たちです

先ほど教育長もおっしゃったように、やはり将来的な環境、子どもたちの環境をよりよいものにしていくためには、一つはハード面の環境整備もしなくてはならないし、ソフト面の環境、人材のことも含めて、考えていかななくてはいけないということを思って、読ませてもらいました。将来、小牧市のゴールや「子どもたちにとって居心地のいい環境を作っていくためにこうしていきます」というビジョンみたいなものは持っているのかなと思いました。ステップはよくわかりました。しかし「どこを目指します」というのを小牧市民の方にも知ってもらい、そこに向けて今こういう取組をしていくことを「ご理解ください」「何か問題があったらご提示ください」というステップをとっていくといいと思います。

今は移行期間中だと思いますが、教育改革でいうと、ゴールを市内の市民の皆さんに知っていただけると、こういう方向に向かって今こういうステップをとっているというのが見えてくると思いました。

加藤委員長)

事務局から何かありますか。

事務局)

将来にわたってスポーツや文化活動に親しむというのは、今親しんでいる運動や文化の活動に「その先も参加をしていきたい」という気持ちだったり、一つのことにこだわらずに「他の種目もやりたい」など途中で興味が移ったり、いろいろなことが想定されると思っています。その中で、まずは学校部活動としてやっている種目が中心になるかと思いますが、ジュニア育成という形で親しむことをねらいとしながら取り組んでいる活動もあります。部活動としては設置されていない種目も、簡単にできないというのはわかっていますが、将来的には、様々な活動があって本当に自分がやってみたい、親しんでみたいと思う取組に、自主的に参加できるような形をつくるのがゴールなのではないかと思っています。一気にというのは難しいこともわかっている中で、理想として思い描いているのはそういった形なのではないかと思っています。

前原委員)

アンケート結果も読みましたが、自分たちもそうですが、今ある現状を踏まえて子ども達や保護者が困ってない状況であれば、「何で変えなければならないのか」という世界になってくる。それでも、着々と進んでいる状況というのは、「やはりやってよかったね」と思ってもらえる。紆余曲折はあるし意見も出ると思いますが、結果的にはこういう方向で子どもたちにとって「よかった」という方向性に持っていくために今その検討をし

ていると思います。子どもたちには今の活動しか見えてないので、「なんで他の学校行かなくてはならないのか」という意見が出てくるのはよくわかります。

しかし、将来的に生涯スポーツや生涯文化的な活動という部分の現場にいるものですから、将来的に言うと子どもたちの生きる力に繋がっていくようであれば、保護者もなるほどと思ってもらえると思ひ、いろんな意見が出ることはとても大切なことだと思っています。このように様々な意見を言っただけの保護者の方や子どもたちがいることはすごく大事なことです。

委員長)

アンケート結果も踏まえての質問とご意見にもなってくると思いますが、他の質問、来年度以降の取組も含めて見ていただきながら、ご意見もあればお願いしたいなと思います。岩井委員お願いします。

岩井委員)

今、前原先生からお話があり、それに関わることですが、私の場合はもう少し狭いところでお話させてください。

文化系については、スポーツ系とは違う部分があって、特に吹奏楽部などは楽器が大きな重い課題になるので、持ち運びやどの学校にどの程度追加して購入してもらえるかといういろんな問題もあると思うのですが、少し文化のことは置かせていただきます。スポーツ関係で新しい構想を伺ったのですが、将来的には部活をベースにして、土日のクラブもこうしていきたいというお話だったのですが、そのクラブはどのようなクラブで何を目的にするかを明確にしておかないと空中分解すると思います。

一番いい例は、サッカーの例を挙げさせていただきます。今から約20年弱前に、JSCという市の、いわゆるトレセンチームのクラブチームというのを作りました。このチームは、指導者の中で「強いチームを作りたい」という人が多くいたので試みたのですが、1~2年で空中分解します。その当時の生徒だった子が今、市内の教員でもいるのですが、なぜそれが続かなかったっていうのはもう明らかで、やはりその指導者のねらいや、強化をしたいという思いが強すぎて、様々な指導者が入ってきたので、船頭が多すぎて船が進まなかったのです。

それとは対照的に、約30年前に小牧市の今のスポーツ協会、前身の体育協会で興したジュニア育成活動というのがあります。これはどの競技も30年近く続いているわけです。一体なぜこれがこの対照的かというと、ジュニア育成の目的がはっきりしています。これはチームではなく強化でもありません。普及と育成です。

それをはっきりして、「全市どこからでも来てください」「誰でも入れますよ」という活動だったので、ここまで続いているということがあります。今後、この取組を進めていくのであれば、どこが主体で事務局になるかという問題があると思います。どのようにしたいかということを考えていかないと指導者や民間の方が入ってきて、それぞれバラバラの考え方で進めたら、JSCのような形になることも十分考えられるし、ジュニアクラブが途中でなくなってしまう経緯も、中学校や小学校まであるのですが、やはり指導者と学校側のやっぱり考え方の違いというのも一つあったと思います。

そのため、取り組む以上は長続きする活動にしていきたいので、その辺ははっき

りしておかないといけないというのが1点です。

もう1点は、先ほど質問したのは、「部員数が足りているから、なかなか連携が進まない」といったことに、私は少し危惧を感じています。教員の負担になるから、地域移行と言いながらも、学校が部活を離そうとしてないのではないかと感じます。だから割り切って、こういう活動にしていくのだということを、全市で共有して、そのためのこういう土日の活動、平日の活動ということを、きちんと目標・目的を示してあげれば、長続きしてくるのではないかという思いがあったので、ぜひ検討して進めていただければと思います。

加藤委員長)

今いろんなご意見が出てきました。実際のモデル校として、今教員の様子はどうか。中学校の尾形委員。

尾形委員)

本校の職員は、勤務時間を終えた後に、それぞれのやれる時間を作って、それぞれできる範囲の中で子どもたちへの指導をしています。決して多忙だとか、負担だとか、後ろ向きに考えている職員が多いわけではなく、自分たちのできる範囲の中で、部活動指導に関わっていると思います。

加藤委員長)

土日などはどうですか。

尾形委員)

土日でも、部活動の最初の年度初めの説明会の時に、顧問から部活動の方針を伝えます。方針としてきちんと生徒に説明した上で、参加するかどうかを年度始めに聞いて、諸事情により部活動が土日少ないところもありますし、それをわかって入っている生徒もいます。それぞれの部活動で、その活動の回数とかも少し変わってきていると思います。

加藤委員長)

今、岩井委員の方から、強化、育成普及という、二つが出ましたが、事務局としては将来的に、休日の地域連携の形としてはどちらの方向性を考えていますか。

事務局)

元々、部活動のガイドラインがあり、それに沿った形での活動時間や、休養日のとり方を守っての活動が基本です。そのため、地域クラブという形で地域において取り組む際に、岩井委員もおっしゃられたような過熱化していくようなものになってはいけないというのは当然のお話だと思っています。土日のところで活動に親しむということはありませんが、大会に参加するというのも、子どもたちの中で自分たちの練習の成果を試すとか発表の場を持つとか、そういった目標もあるので、取り組む目的の中の一つではあると思っています。地域連携を進める中で大会に出ていくということを将来的には見据えて、学校で単独で出るという形は変化していくと考えます。

中川教育長)

今委員長が育成か強化かということを言われましたが、これからの世の中というのは、多様な考え方を持っている人たちが増えてきています。岩井委員が、強化に特化した形

でやろうとしたらそこが頓挫したということを言われたのですが、強化の方で自分の技を磨いていきたいという子もいますし、余暇活動の中で楽しめる活動をしたい子もいます。

これが共存する形の地域クラブが出てこなくてはならないので、学校部活動のように、小牧中学校であれば陸上部、サッカー部とか種目も含めて、ここの中で選びなさいということで、この種目については強化を目指していきますなど、顧問が方針を述べるということと言われました。その枠の中で子どもが選択しなければならないということです。

そうではなくて、小牧の目指す地域部活動・地域クラブというのは、楽しめる活動・組織があってもいい、強化を究めていくっていうのがあってもいい。それを選ぶのは、それぞれの受益者です。

そういう方向へ持っていきたいから、育成と強化をというものを線引きして「小牧はこっちの方向へ行くのですよ」とか、そういうものじゃないと私は思います。文化にしても、吹奏楽やここには出てきていない合唱、プログラミングなどの新たなものも、ニーズに合わせて出てきてもいいと思います。それを受けてくれる団体などがあれば、それをとにかく開拓せよということを行っています。

学校の教員についても、岩井委員が言われたように、教員は部活動に力を注ぐところがあるのですが、将来を見据え教員の意識改革も進める必要があるということは事務局に話しているところです。

加藤委員長)

その他の意見はよろしいでしょうか。

大野委員)

これは質問ではないのですが、このぐらいの覚悟を持って、どうやって維持していこうかを考えていただきたいというお願いも兼ねています。

部活動の大会に出て、成功体験を経て大人になっていくのも一つですが、例えば引きこもりで「このままどうなってしまうのだろう」という子どもたちが、スポーツを通じて学校へ行けるようになることがあるということも理解していただいて、まさに教育長先生がおっしゃったように多様性で、別に大会で優勝したいとかじゃなくてもそれをきっかけに学校へ行けるようになったということだけでも保護者としては本当に嬉しい話です。もちろん多様性にも対応して欲しいですし、本当に子どもたちの目線であってほしいです。そして親御さんはやはり共働き家庭が多いです。負担がかからないような形を、親という立場からの意見としてお伝えしたいです。

加藤委員長)

意見、質問も含めて他によろしいでしょうか。来年度以降の取り組み方についても、意見はよろしいでしょうか。

岩井委員)

意見ではなくて、報告で、小牧市サッカー協会からのお話です。指導者の方はもう十分にいつでも派遣できるように整っているということなので、事務局からも、あと各学校で「こういう形でこういう指導して欲しい」という依頼があればすぐに対応します。そのことを報告させていただきます。以上です。

加藤委員長)

指導者の確保がかなり難しいというのは前々から言われていることですので、サッカー協会の方からそういった形でお声をいただいておりますので、また活用の方よろしくお願いをいたします。

他にはよろしいでしょうか。

新實委員)

私たちスポーツ推進委員は、基本的にはニュースポーツの普及が前提になっていますので、残念ながら直接の援助というのは難しいです。そういった種目を教える資格というのを持っていないですし、ベースになるのはニュースポーツの普及ということなので、申し訳ないのですが直接の力添えは難しいことをご理解ください。

滝藤委員)

小学校の教員という立場で来ているので、自分自身の経験も踏まえてお話させていただきます。

僕は前任校の時にジュニアクラブとしてバスケットボールの活動を進めておりました。ジュニアクラブとして運営していたのですが、すごくいいコーチの方に恵まれて、比較的運営はうまくできたと思います。

やはりそのときに、ジュニアクラブの携わる人と話をしていると、教員とジュニアクラブのコーチでうまくいかないケースというのは非常に多かったのではないかと思います。もちろん、うまくいっているところもたくさんあったと思います。ジュニアクラブでありながら、教員としては保護者から子どもの相談を受ける立場であり、コーチにはやっていただいている部分もあるため、そちらの指導方針にも合わせていかなければならない部分もあります。部活動として続けるほうが楽というような意見も正直出てくる部分があるのではないかと今のお話を聞き思い出しました。

先ほどの小牧中のお話で、人数が揃っているところは、なぜそれをやっていかないかというのは、正直人数が揃っていて、人数面の困り感がないのであれば、単独でやった方がというような部分はかなりあると思っています。実際に連携するとすると、練習日はいつにするのか、練習場所はどうするのか、どういう方針で練習をするのか、誰が指導者として行くのか、目標値をどこに定めるのかといった意見をみんなで募り、しっかり会議して年間の方針を立てていく必要が出てきますが、その時間がどこにあるのかと言われると、難しいです。

人数が少ないところは、そうしないと子どもの活動が保障できないため、集まり、それを保障し、「じゃあこうしていくと子どものためになるよね。」という形で進んでいると個人的には思っています。

部活動がかなり今の小学校は少なくなっているという現状がありますが、「先生、部活もっとやってほしい」という声はなかなか聞かないです。

アンケート結果にも表れていますが、自分の趣味の時間に使いたいなどの思いがあると感じています。バスケットボール部や吹奏楽部に入っている子たちは気持ちよく活動をしており、「楽しく活動したい」というのが一番中心にあるのは間違いないと思います。先ほど、強化と育成と両方あり、それはどちらもあるべきだと思います。

指導者としてそれを共存させながらチームを運営するのは、正直自分が指導者としてやっていたときに難しかったので、強化の方向でやっていく小学生はクラブに入っています。

他市町のクラブに所属し、自分を高めるための活動に参加している子、趣味を広げたい、楽しく活動したいので部活動に入っている子というイメージがあります。この7ページの地域の取組で、地域が主体となる地域クラブの位置付けとなっている、生涯学習、生涯スポーツという考えがすごく大事になっていると思っています。広くスポーツに親しむ機会がえられる場所を小牧として提供していただけると、小学生にとってはすごく意味があり、そこで自分に合った種目や力を入れたい種目を見つけて、次のステップに進んでいけるようなクラブができ上がってくるといいと思いました。

加藤委員長)

田上委員どうですか。

田上委員)

小学校の状況は滝藤委員が言われたとおりであります。中小体連事務局という立場でここに参加をさせていただいていますが、先ほど岩井委員からもありましたが、移行期間に入って行く中で、少なくとも子どもたちに不利益が起こらないようにということを、第一に考えながら進めていきたいと思っています。

宮腰委員)

本校は小さい学校なので、教員の人数がとても少ないです。そのため、部活の数もたくさん設置することができません。

サッカー部がなく、子どもたちの中で、サッカーをやっているから中学校でもサッカー部に入りたいという声もありますが、現実問題、教員をつけることができないので設置することができません。そのため、将来的に様々な学校や、地域でやっていただいて子どもたちがやりたいスポーツをやれるようになるというのは、とてもいい方向だと思います。しかし、今、サッカー部がないから小牧中と一緒に合同でサッカー部をやりますとなったときに、教員は出すことは現実難しいと感じます。

学校部活動である以上、教員は子どもたちの安全面や健康面とかを見なくてははいけないとは思いますが。

学校が部活動を手放さないのではないかという話もありました。また、子どもの人数が揃うのであれば学校で部活をやった方がやりやすさもあります。例えば、移動に伴う子どもの安全面や欠席連絡、その他活動中に調子が悪くなった際などの連絡方法など細かい課題が多くあるように感じます。

服部委員)

保護者の金銭的負担や、生徒や保護者の意見の取りまとめ等、様々な課題があると思います。仕組みづくりが必要だと思います。

福岡委員)

吹奏楽連盟の立場で今日は参加させていただきました。

昨年度まで中学校に勤務しており今年度小学校に変わりました。部活動について考え方も変わってきました。例えば吹奏楽で言いますと、土日のどちらかで集まり活動をし

ておりましたが、ジュニア奉仕団の活動と重なることもあります。活動を続けたい子はたくさんいるのですが、立ち行かなくなるというのが現実です。

保護者が送迎など協力してくださるのですが、子どもの行事が重なってしまい、結局分解してしまうということもあります。

セキュリティの観点からも、学校で実施するのではなく、市から公民館などの場所を借りて楽器も置いておけるのが一番いいと感じます。

また、吹奏楽や演劇などはコンクールや文化祭、フェスティバルがありますが、部活動を地域移行して一か所に集めた場合、出場できなくなってしまうことも考えられます。地域移行を進めていきたい反面、解決しなければならない問題があります。

滝藤委員からもありましたが、子どもたちの様子を見て思うのは、子どもたちは本当にスポーツが好きです。やりたい子どもはクラブチームに入って活動をしたり、地域の方がやっているスポーツクラブ活動にも参加したりしています。学期に1回程度スポーツクラブの方が、子どもたちをスポーツクラブに招待してくださいますが、多くの子どもが参加します。部活動地域移行は市全体で考えていかなければいけないと感じます。

森川委員)

文化財団としては、子ども向けのワークショップをやらせていただいておりますが、例えば、週何回、月何回というような継続的なものは難しい面があります。私が直接お世話になっている文化協会の指導者の方々には、ご年配の方々も多いのですが、子どもたちの感覚に合わせようとしてくださいます。しかし、体力的な問題等もあるのでその辺りが課題かと思っております。今度、夏休み子ども文化体験教室を学校にお願いすることになると思いますが、そのような単発のイベントでは協力できるところが多々あるかと思えます。しかし、部活動のイメージで継続的に関わっていくのは現状ではなかなか難しいのが正直なところです。

加藤委員長)

ありがとうございました。

最後に、事務局から令和7年度以降の取組で再確認をお願いします。

事務局)

令和7年度につきましては、先ほどもお話をしたようにモデル校については種目によって場所を指定しながら地域連携を進めてきたいと思っております。

子どもたちが部活動に入るとなった際、先生方は子どもたちへの愛情や部活動に対する熱意も含めて、自分たちの学校の自分たちの児童生徒という思いは当然あるかと思えます。そのため、人数がそろっているのであれば学校単独で活動するという話に集約してしまうかと思えます。しかし、今は過渡期ですので、課題も多くあり、なかなか難しい面はありますが、少し考え方を広げて地域の子どもたちととらえていけるといいと思います。目の前にいるのは、何々中学校の子どもたちというよりは、地域の子どもたちととらえていただき、指導者として大人としてその子どもたちにどのように関わるかが大切だと思えます。ゴール地点を見据えながら、過渡期として、連絡方法や移動での安全面など様々な課題を少しずつクリアし、地域の取組へ移行していくことができればと

思います。

もし、文化団体やスポーツ団体が主催しているところに、指導者として自分が参加するとなると、それは教員という立場ではなくて指導者の一人として関わりたいという気持ちで参加すると思いますが、委員のお話を伺い、学校間の連携をしながら地域移行を進めていく難しさを改めて感じます。

令和7年度は、モデル校の取組を工夫しながら、学校間の連携も進めていく必要があります。また、各委員からのお話にもあったように、競技によっては市全体の取組を進めていける部分があるかと思しますので、その発掘から改めて進めていきたいと思します。

加藤委員長)

他に質問やご意見がなければ、本日の協議事項はこれで終わりということになりますが、よろしいでしょうか。

委員)

(意見・質問なし)

4 その他

加藤委員長)

その他について、事務局から何かありますか。

事務局)

特にございません。

加藤委員長)

これで、我々に与えられました議事については終了しました。事務局にお返しします。

吉田課長)

委員の皆様、長時間にわたるご審議ありがとうございました。それでは、これをもちまして、第1回小牧市小中学校部活動検討委員会を閉会いたします。

<終了>